

1 学校教育目標

- ・かしこい子
- ・思いやりのある子
- ・たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○「子供たちが輝く学校」 ・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す学校 ・教職員が豊かな感性と情熱をもって、学び続ける学校 ・地域・保護者とともに、地域愛・学校愛をもった子供たちを育てる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問いをもち、見通しをもって、学び続ける子 ・自分や友達のよさを認め合い、励まし合い、高め合える子 ・夢に向かって、しなやかにたくましく挑戦し続ける子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す教職員 ・授業力向上に熱意を注ぐ教師 ・学校と地域を愛する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

【前年度の成果】

- ・学校評価の「確かな学力の定着」に関する3項目は、児童93%以上、保護者88%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、一定の評価は得られた。今後も教師の授業力向上を図っていく3年目の取組となる「本木5つの約束（学習・生活）」が浸透してきており、児童は落ち着いて学習したり、生活したりしている。
- ・児童が年間で読んだ本の冊数がR2年度26.6冊→R3年度38.6冊→R4年度42.5冊と年々増加している。「読書通帳」が効果的に活用された結果である。
- ・コロナ禍であったが、人権尊重教育推進校として研究授業を（7本）行うことができた。中間発表も行い、成果と課題を確認することができた。
- ・1.2年hyper-QU、3～6年WEBQUを年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会（管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等）実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、情報共有し、見守り指導していく体制を継続し、児童の心の安定を図ることができた。
- ・R2年度より、本校の児童の課題である、長座体前屈（柔軟性）、ソフトボール投げ（投力）、シャトルラン（持久力）の記録（平均）を、年に2回とっている。全体的に1回目より2回目上昇。中でも、長座体前屈は他の2つの記録と比べて順調に伸びている。
- ・学校評価「学校・家庭・地域の連携」における満足度は89%であった。PTA主催による「本木ふえすた2022」、図書ボランティアによる「読み聞かせ」、学校の周りの球根植え等、地域・保護者の方々と対面での関わりができるようになり、連携を深めることができた。
- ・感染状況をみながら、授業参観も積極的に実施するなど、可能な限り児童の様子を保護者の方々に見ていただく機会を多くもつことができた。

【課題】	
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自ら、「自分の成長」を感じられるような指導・授業を行う。 ・児童自ら、つまずきをのりこえられるような指導・授業を行う。
思いやりのある子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心できる環境（心・場・時）に整える。 ・一人一人の教師が自らの人権感覚を磨き、人権意識を高めていく。
たくましい子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員で児童を指導し、児童を多面的に理解する。 ・児童が健康でたくましく成長できるよう、体力向上の取組を強化する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着 (学習意欲・基礎基本の力・考える力・授業力) 学力向上アクションプラン	◎	◎	○		
2	思いやりのある子の育成	◎	◎	◎		
3	たくましい子の育成	○	○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童が自ら、「自分の成長」を確認できる授業、つまずきをのりこえられる指導・授業の実現	単元テスト 85%以上 区調査 通過率 75%以上 平均正答率 75%以上	単元テスト 78.20% (国 80.83%算 75.58%) 通過率 73.3%(国 74.3%算 72.4%) 平均正答率 72.7%(国 72.7%算 74.7%)	・目標達成・学習の定着状況等は、6(1)を参照	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業力の 向上	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の研修計画(板書計画の重視) ・教科担任制・学年担任制・専科副担任制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 7回実施 ・校内公開授業 1人2回以上実施 1人2回以上参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 12月迄に7回実施 ・校内公開授業 11月迄に各2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 12月迄に7回達成 ・校内公開授業 11月迄に各2回以上達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修 10回以上達成 ・教科担任制(3~6年)や交換授業(1~2年)が効果的に実施。全員で見守りやすい体制となった。 	◎

2 新規	「読み・書き・計算」の力の向上と定着	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習（視写） ノート指導の充実 音読指導の充実 漢字・計算コンクール等の実施 読書通帳 	<ul style="list-style-type: none"> 視写の字・量 ノート点検 音読学習の記録と音読発表会等 コンクールの記録 冊数・ページ数 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の成長を定期的・記録し、「成長の見える化」を確実に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 計算コンクールは個々の成長の伸びに着目し、表彰することで、児童の意欲も増す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間、視写に取り組むことで、朝のスタートが落ち着いて始まる。鉛筆の持ち方を意識する時間となった。 	○
3 新規	自力解決タイム	全教科	通年 (月・火・金)	<ul style="list-style-type: none"> 担任・専科教員等が指導 学習支援ボランティアや保護者・学生のボランティアが支援 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストや区学力調査過去問等の正答率 	<ul style="list-style-type: none"> 校内単元テスト 85%以上 区調査通過率 75%以上 平均正答率 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 78.20% (国 80.83%) (算 75.58%) 区通過率 73.3% (国 74.3%) (算 72.4%) 区平均正答率 72.7 (国 72.7%) (算 74.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストは、学年での算数の差がかなりあった。学年ごとに課題を更に細分化する必要がある。 	△
4 新規	読解力向上タイム	国語	通年 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 担任・専科教員等が指導 「読解力向上」を図る問題に取り組ませる。 				<ul style="list-style-type: none"> 通年水曜日で指導を行っていたが、行事等でカットされることも多かった。 	△
5 継続	AIドリル	算数	通年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習等の時間に、個別で活用し、つまずきは授業等で解説 	<ul style="list-style-type: none"> 個人・学級・学年等のAIドリルの活用度 	<ul style="list-style-type: none"> 1人平均 毎日10問以上 	<ul style="list-style-type: none"> 強化月間、平均 547問達成 	<ul style="list-style-type: none"> 月によって活用度に差があることが課題である。 	○

重点的な取組事項－2 思いやりのある子の育成

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が安心して、自分のよさを発揮できる学校生活の実現		<ul style="list-style-type: none"> hyperQU・WEBQUの要支援群等の児童や学級生活満足度尺度の改善 自己肯定感の向上(前年度等の比較) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習生活満足群は、全国42.5%と比較し、本校57.1%(+15.7%) 自己肯定感、前年度より改善 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目より2回目の方が非承認群・学級生活不満足群が改善した。 	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業7本 	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重教育推進校発表会に向けて、研究授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重教育推進校としての研究発表会の開催があり、高い評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己肯定感の高まりが認められた。 	◎
本木・本気プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 学年で1本以上 発表の場を設定(互いの活動を伝え合い、認め合い、高め合う) 	<ul style="list-style-type: none"> 学年が一体となった取組 取組を発表する場の設定(児童自らが、学校生活をよりよくしていると実感できるような取組とする) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に、各々の学級や学年の取組が発表され、子供たちの自己肯定感や達成感につながったことを実感することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 2年目の取組となり、内容がさらに充実してきた。子供たちの思いや考えを大切にしてい 	◎

自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> WEBQU・hyper-QU を全学年 2 回実施。要支援群等の児童等の状況改善。親和的な学級の増加 年 4 回以上の「俳句創作」実施 	<ul style="list-style-type: none"> 分析と改善計画 教育相談委員会での情報共有と改善確認（毎週金曜日） 生活指導夕会での情報共有と改善周知（毎週月曜日） 年 4 回、季節毎に創作し、感性・語彙力を磨き、豊かな心を育む（コンクール等にも参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全ての項目で 1 回目より 2 回目がより改善傾向が見られる全国と比較し、かなり高い数値 要支援児童 1 回目 2 回目の延べ人数 12 名 年 4 回の俳句創作 実施達成 俳句創作において、意欲的に取り組む児童が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会で得られた児童の情報が確実に翌週的生活指導夕会で共有され、細やかな対応に結びついている。 俳句創作する機会をさらに増やす。 	◎
----------	--	---	--	---	---

重点的な取組事項－ 3 たくましい子の育成

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活と体力・運動機能の向上	R4 年度以前と比較し、R5 年度に改善あり	・経年変化で改善傾向あり	・全校での取組効果高	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律正しい学校生活の徹底	・児童アンケートにより、90%以上が肯定的回答	・定期的なアンケート実施（年 3 回以上）	・R4 年度同時期と比較し、「生活・学習の 5 つの約束」において、10 項目全て改善傾向あり	・「安全に登下校する」「安全に生活する」の項目は改善が大きい。	◎
健康・体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の体育の授業で課題を解決するための運動の実施と運動量の確保 都（R3）や本校の体力調査（R3）の記録等と比較平均値の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 「体力アップ記録カード」を活用し年 2 回記録を実施 研修にて、教員が課題（柔軟性・持久力・投力）改善のための運動を習得し、授業で継続的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> シャトルラン（春と秋の比較）男子：+2.6 回 女子：+3.0 回 ソフトボール（春と秋の比較）男子：+1.1m 女子：+0.6m 	・持久力向上のための取組「本木ランランラン」が効果を発揮した。他と比較するより個々の記録に着目することが必要である。	◎
保健指導・食育指導の充実	生活習慣アンケートをとり、R4 年度と比較し改善（学年・学校全体の推移を確認し、児童への指導と保護者への啓発を行う）	<ul style="list-style-type: none"> 「生活リズムカード」等の実施 養護教諭や栄養士と連携した保健指導や食育指導の充実 保護者会や各種便り等を活用し、保護者への啓発 	・昨年度に引き続き、同時期に生活習慣を確認するためのアンケート（6 月実施）をとり、児童に指導したり、保護者に家庭での過ごし方を見直すよう提起したりしてきたことで、スマホや携帯のトラブルは減少してきている	・スマホや携帯を所持する児童が増加し、それに伴いトラブルが増加している。正しく安全な使い方ができるよう、継続的に指導する。	○

6 まとめ

（1）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
 ア 学力向上アクションプランについて
【課題】 国語：漢字・語句・ローマ字等の読み書き、辞書の使い方などの学力の定着に差がある。文学的文章や説明的文章における内容を読み取る学力の定着が不十分である。順序立てて自分の考えを書き表す学力の定着が不十分である。

MIMの定着度は時間をかけて指導すれば徐々に上がってきているが、個人差が大きい。

算数：時刻、長さ・重さ、図形、数量の関係等の単元学習における学力の定着が不十分である。

文章問題に記述式で答える等、文章問題の内容を理解したり、根拠を示して説明したりする学力の定着が不十分である。

全体：学力において、学級間・学年間の差があり、定着度が低い学年がある。

【対策】国語：朝の時間の活用し、AIドリル・漢字ドリル、読書などに組みこませる。

俳句創作（春・夏・秋・冬の4回＋学校行事での創作）回数を増やす。俳句創作の研修を行い、教員の力を高める。

読書活動が授業だけでなく、校外の時間にも広がっていくよう、読書の推進を図る。

MIMの指導において、図書の時間等、毎週決まった時間に、専科の教員等が学級に支援に入り、個別の指導を強化する。

週に1回（水・5時間目）を学校全体で「読解力向上の時間」とし、読解力の問題に取り組ませる。

算数：各学年で身に付けるべき計算について、「自力解決タイム」や家庭学習の時間を使って、難度を段階的に考えた計算問題（AIドリルを含む）に徹底して取り組ませる。

算数の学習を習熟度別に行う。下位のグループの人数を減らすなど、学力が定着していない児童に対して、より丁寧な指導を行う。

毎月1回以上、計算コンクールを実施し、児童が自ら自分の目標に向かって頑張ろうとする意欲をもたせる。

全体：本校に合った「教科担任制」の体制を整える。各々の教員が担当した教科の授業力を向上させる。

「自力解決タイム」は、学年や低・中・高学年のグループに担任以外の教職員も入り、共通理解のもとで指導の徹底や支援を図る。

児童の成長の「見える化」をさらに推し進める。児童自身にも、前の自分と今の自分を比べて自分の成長を意識させるようにする。授業や「自力解決タイム」等で、個々のつまづきを確認し、学年で分析する。AIドリルを十分活用し、個々の課題を乗り越えさせる。「自力解決タイム」において、保護者や地域の方々の「学習ボランティア」の人員確保についても進めていく。

重点的な取組事項－1

・学校評価（保護者）の「確かな学力の定着」に関する項目で、「基礎学力の定着のための丁寧な指導」では、児童84%、保護・地域87%、「意欲を引き出す授業の工夫」では、児童86%、保護者・地域88%が、「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、ある程度の高い評価が得られた。区の学力テストにおいての結果は十分とは言えない。既に低学年で学習内容の定着度が不十分であること、個人差が大きいことが課題である。

重点的な取組事項－2

・東京都人権尊重教育推進校として研究授業を（7本）実施し、11月には研究発表会も開催することができた。各方面から高い評価を得られた。

・全学年hyper-QUを年に2回実施。全国と比較すると、学級生活満足群が高い数値を示している。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会（管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等）の実施。児童の心の安定を図るための体制を重視し、学校全体で児童を見守ってきた。

重点的な取組事項－3

・「学習規律や生活規律の徹底」においても、児童90%が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ている。毎月実施する全校朝会や避難訓練など、全児童で集まる場面において、時間通り、または時間前に始まることができている。人の話を静かによく聞く姿勢も育ってきている。

・本校の児童の課題の1つ、シャトルラン（持久力）の記録（平均）は上昇してきているが、日常的・持続的な取組を新たに考えていく必要がある。

・「生活習慣を確認するためのアンケート」（6月実施）を、児童への指導や保護者への啓発に活用することができた。引き続き実施する。

（2）保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきまして、感謝しております。本校は、特に授業の中で児童一人一人が自分のよさに気づき、自らの可能性を広げ、輝くことができるよう尽力して参ります。そのためには、一人一人の教師の授業力向上が重要です。研究授業だけでなく、日々の授業の中で、教師が互いに切磋琢磨できるような体制づくりに努めていきます。

これからも、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

（3）その他（学校教育活動全般について）

地域の皆様・保護者の皆様のご支援のお陰で、東京都人権尊重教育推進校としての研究発表会も無事に終えることができました。ありがとうございました。今後も、東京都、足立区の人権教育における推進役としての役割を果たせるよう、研究に取り組んでいきます。